

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800165		
法人名	有限会社 しあわせの家		
事業所名	グループホームしあわせの家		
所在地	千葉県山武郡大網白里町南横川3148-20		
自己評価作成日	平成23年2月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にホームがあり散歩される時も四季を感じて頂き、近隣に公園があり、毎日公園にゆくことが日課になっています、きめ細やかな介護サービスが提供できるように職員一同で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR大網駅から4.5kmの本当に閑静な住宅街の一角に位置し、周りは緑に恵まれ公園もあり、安全に散歩を楽しめる環境にあります。
2階建ての民家を改造したホームのため、風呂トイレ等少し手狭な感じもしますが、むしろ却って家庭的な感じがあり、料理も職員の手作りで生活感があります。
利用者が互いに助け合い、会話を楽しんだり、飼っている猫を可愛がったりと、毎日の生活を楽しんでいる風景が見られ、家族アンケートでも、多くの方が満足しているとの結果が出ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を掲示し、管理者、職員間で話し合いをして、理解、共有し、実践に取り組んでいる。	運営法人の経営目標及びホームのモットーと共に、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲示し、質の高い支援を目指しています。但し、全職員に十分浸透しているとは見受けられません。	毎日の申し送りのミーティングや定例の職員会議等の際に、実践できているか振り返る機会を設け、職員との一層の共有化を図ることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や談話、地域の清掃活動、催し物等にできる限り参加している。普段から、散歩時などで缶、ペットボトル、など拾いながら散歩される。	自治会に加入し年2回のごみゼロ運動に参加したり、毎日のゴミ集積所の掃除当番を務めたりしています。また、民生委員からのアドバイス等により敬老会や夏祭り・盆踊り、他の施設で行われるバザー等外部で行われる行事に積極的に参加しています。	地域との交流は行われていますが、今後はボランティアや中学生の実習生の受け入れ、近隣の方のホームへの招待等、困難とは思いますが積極的に働きかけてはいかかと思われれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゴミ拾いや草刈りなどで地域に貢献する。推進会議の時に認知症を地域の方々に理解して頂けるように説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では意見を出し、話し合いをしてサービス向上に繋ぐようにしている。	基本的に2ヶ月に1回、役場の担当者、民生委員、家族、利用者等の出席の下に開催しています。議題も、単なる現況の報告だけに止まらず、幅広い事柄について話し合い、例えばノロウイルスに対する予防の方法について細かいアドバイスを受けていたりしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは、些細な疑問から密に連絡を取り、協力関係を築いている。情報などフアックス等で行政の大事な研修を知らせて頂くことなど。	役場の担当者が運営推進会議のメンバーとなっているので、ホームの実情を詳しく説明し理解を深めてもらい、いろいろな問題についても相談しやすい関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を修了した、職員により会議を行い、指導を行い身体拘束をしないケアを実践している。	職員は一応身体拘束について正しく理解しており、玄関は日中施錠していません。ただ、職員の目の行き届かない夜勤の間は、安全の為車椅子使用の方にベルトを架けることがあります。家族の了解を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、精神的虐待等含め、ミーティングで話し合ったり、虐待防止の研修を受けた職員で話し合い勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修終了した職員に勉強会を行い、制度について学びました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし、理解・納得出来ない状態にせず、十分理解・納得して頂けるまで説明するよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた際、普段の生活状況・様子を伝え、御家族からの意見・要望を伺い、希望に添える様に管理者と職員で話し合い、実践に努めている	家族の意向の把握のため、年2回ホーム独自でアンケートを実施しています。また、面会の為来訪した際にも現況報告かたがた意見・意向を聴く様に行っています。毎月請求書を送付する際に、状況を記入して伝えていますが、感謝の手紙が来ることもあっても、苦情等々は特にありません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を行い、職員の意見交換をして 良い意見を反映させている。	月1回の職員全体会議の他に、毎月職員の行う介護についての自己評価に基づき話し合っています。職員からの提案に基づき、頻尿の方にポータブル便器を準備し、部屋を汚すことのないよう改善に繋がったこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の希望を出来る限り取り入れ、向上心に繋がるように職場環境を整えるように努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の施設への研修に参加したり、研修案内がきたら参加出来るよう配慮している。他の施設で学んだ良い点を自分に取り入れ活かす様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	緑の風と交流を持ち勉強会を設け、サービスの質向上に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築くべき信頼関係の重要性を十分理解している。この段階で活用すべき援助技術に全力を尽くし、受容に努め、信頼関係を築くよう努めている、コミュニケーションを図り、不安感を取り除き事に努力します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともコミュニケーションを図り、困り事や不安を解決していくように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズはどんな事なのかを知り、良いケアを見極めて実践して行くように努める・		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを兼ね、日常生活の中で出来る事を一緒に行うなど、助け合い、支え合う関係を築いている、日中の自立支援を支える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、共に意見を話し合い、ご家族の意見も重要視した上で本人を支えている、信頼関係を築くように」努める・		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大事にされていた物をホームで使用できるようにしています。	家族が遠方の方もおり、頻繁に訪れる方はあまり多くないようですが、兄弟が集まって訪問し、外食に出かけたり、近くの大型銭湯で楽しい時間を過ごす方もあります。家族と過ごした日は利用者がとても良い表情になり、夜もよく眠れるようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士自然と良い関係ができていく。 そうでない場合もスタッフが間に入り、関わり合いがもてるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーを提供したり、利用者の様子を伺い電話をいれたり、近くまで行く時はお顔を拝見することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に合わせた生活のリズムを崩さないよう、生活歴を重視し、無視しないよう意見、要望を聴き、希望に沿うように努めている	レクリエーションや食べたい物、行きたい所など、その都度聞いて、利用者の思いを尊重した支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去に得意だったことや、その人らしい暮らしや、大切な経験や出来ることを知り、経過等の把握に努めている。本人の情報をご家族より聞き出し参考にしてしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身状態、残存機能を活かすことの重要性を理解し、把握に努めている。また、それらを記録に残している。カンファレンスに活かす。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者、医師、看護師、職員、ご家族、ご本人、必要な関係者と相談し合い計画、作成をしている。ニーズを話し合い、より良い暮らしが送れるように色々な提案を出しモニタリングと介護計画に活用している。	家族・本人からの意向を聞き取り、丁寧なアセスメントを行なっています。医師の意見や看護サマリーを参考にして、介護計画作成担当者が職員と共に介護計画を立てており、毎月モニタリングし、3ヶ月ごとに計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に残し、些細な変化など見過ごすことのないよう計画に活かし職員間で話し合いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族もいらっしゃるので、なかなか面会に来られない方には生活上での疑似家族として接している。体調の変化などでは、医療機関に受診やマッサージ師など多機能に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や社会福祉協議会主催の敬老会などを活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外にも、個々の馴染みの医療機関などでも対応できる体制をとっている。整形外科、歯科、泌尿器科、神経内科等	月に1回提携病院の医師が来訪し、利用者の健康管理をしています。薬の処方関係で月に2回のこともあります。専門医への受診は概ね職員が付き添って対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と密に連携をとり、個々の支援に対し円滑に機能なされている 又、医療連携ノートを作成し、介護スタッフからの疑問・質問、看護師からの回答・助言等を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を情報提供して頂き、担当医師と話し合いホームで対応可能な状態になり次第退院できるよう手配して頂いている。 退院時などは介護サマリーと医療情報サマリーを頂き、入院の時は介護サマリーを提供する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しないよう支援することは当然であるが、ターミナルケアを希望の場合、可能な限り提携医療機関との連携をはかり「最期まで安心して暮らせる我が家」を目指しケアを行なうことを定めており、ご家族とも話し合いをしてご協力をして頂く	重度化した場合における対応に係る指針により、ホームの方針を本人・家族に伝えていきます。看取り介護については、「住み慣れた街で、その人らしく最期まで」という理念のもと、医療機関、看護師と連携をとり、本人・家族の意思を最大限に尊重して行なっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは見やすい場所に掲示してあり緊急時はマニュアルの指示通り行動するように指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や防災訓練には職員が参加して、日頃より地域の方々の協力を得られるように自治会を通してお願いしている。夜勤者を重点に訓練を行う、災害等では飲料水、非常食を備えている。	年間、夜勤者を重点とした消防署指導の下での防火訓練と自主避難訓練の2回訓練を実施しています。地域との協力については、近隣の方にいざと言う時の助けを依頼する他、自治会で会員への依頼状を回覧してもらっています。飲み水や食料品の備蓄は2日分程度です。	飲み水や食料の備蓄は最低3日分程度が望ましいとされています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重しプライバシーマニュアルが有り、職員の間で気を付ける事を話し合いをしている。	トイレ介助では、着脱のタイミングなど羞恥心に配慮し、室内での排泄介助は他者から見えないよう囲いをして行なっています。また利用者を人生の先輩として敬う気持を大切に言葉かけを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の何気ないことでも自己決定権、選択権を提供し、権利擁護に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、個々のペースに合わせた柔軟な対応を行なっている。出来る事を促すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者さんはお化粧をされている、毎日の衣類も選択権を提供し、自己決定権を擁護している。理容・美容も本人と相談し望む店に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	晩酌をされる方がいます、楽しみにされています、嗜好に合わせて提供、調理、配膳、下膳、食器洗い等、個々に合わせた支援を行なっている	食事の品目が多く、見ても楽しめてバランスの良い食事の提供を心がけています。利用者が残さず食べている様子からも満足度の高さが窺えます。また食事の下ごしらえや配下膳など、できることを見つけて職員と共に行なっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	色々メニューを作成し、バランスも考えている。食事量の少ない利用者さんは記録し、他の物で補えるようにしている。エンシュアも栄養補給に使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ・誘導し歯磨き、うがいを行い、自立困難な方には介助をし、義歯の無い方は口の中をガーゼで拭いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた支援を行なっているが、困難な方は時間を決めてトイレ誘導・介助を行っている。そのことで失敗やおむつ類の使用量が減っている	リハビリパンツ、尿パッドの使用、ポータブルトイレ設置など個々の状態に合わせた排泄支援をしています。頻尿の人にはポータブルトイレの設置で居室が汚れないよう改善したり、トイレ誘導により失禁が減るなど、自立のための様々な支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と食物繊維の多く含まれた食事や乳製品の提供を積極的に取り入れている。連携医療機関と相談し、必要な方へは、下剤等処方して頂いている。また、毎日の排便確認を実施、記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日を定めているが、個々の希望、状態に合わせ、入浴日にとらわれずに入浴が可能よう配慮している	毎週火曜と金曜の午前中に入浴しています。朝バイタルを測り、問題がなければ全員入っています。浴室と脱衣室にそれぞれ介助者を置き、寒い季節には脱衣室を暖房して、一人30分程度の割合でゆっくり入浴しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方は昼寝をされる事が多くなりました、その時の体調により安心して休息、安眠ができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、使用量等、薬の情報をスタッフの見やすい場所に掲示し、理解に努めている。症状変化を担当医師に相談し、薬変更や使用量の変更の指示を仰いでいる。眠剤、排便のコントロールを主治医の指示に従う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアの重要性を理解したレクリエーション、役割の提供を行なっている。個人に合った生活リハ、レクを行い一日のメリハリをつけ、気分転換になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の買い物は希望により職員と一緒に行く、スーパーに行く事により四季感が分かるので、個々に合わせて外食、ドライブ、花見など出来る限りの外出を心がけている。	月に1～2回レストランでの外食や花見などの外出をするほか、天気の良い日にはホームで可愛がっている猫と共にはできるだけ散歩に出かけています。午前中は自立度の高い方、午後からは車椅子の方という風に分け、全員が外の空気に触れられるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者はお金を所持していないが、購入品など希望に沿って立替として支援しており、ご家族請求としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が書いた手紙を職員が出したり、電話でのやりとりは相手側との関係性を考慮した上で、比較的自由に行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには日当たりも良くゆったりした共有スペースがあり、冬は乾燥防止のため加湿器を使用して湿度管理にも配慮し、快適に過ごせるように工夫している。ホーム内で猫を飼い利用者さんでお世話をされ、癒されています。	日当たりのよいコーナーに置かれたソファでテレビを楽しむ人、居眠りをする人、あるいは、ダイニング部分のテーブルで新聞を見る人等それぞれの好みの場所で自由に過ごしています。調理の音や会話以外に聞こえるのはテレビの音ぐらいで、花を飾ったりして居心地良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような環境になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前と変わらぬ生活が出来るように、馴染みの家具などを待ちこみ、安心され、居心地良く自由に過ごせるように配慮している	比較的簡素な居室もありますが、整理箆箆等好みの家具を持ち込んだり、絵が好きで自分の描いた絵を飾ったり、折ズル等の自分の作品や、写真その他様々なものを飾っている部屋もあり、それぞれ自分の好みに合わせた居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のわかる力を把握し、トイレにはトイレのマークを付けたり、テーブル席、共有の場にある個人のものに氏名のテープを貼るなど、混乱・失敗の防止、自立支援を実施している。衣類もネームを入れて有りわかるようにしている。		